



ひだまり通信

今年の4月から新しく入職しました長野です。出身は徳山市(現周南市)です。名古屋の大学に入学した関係で、学生時代から名古屋に在住し、卒業後も主として名古屋地区で外科医として診療してきました。丸岩先生と同世代で昔の外科医です。私の時代は、癌は取らなければ治らない、とってどんどん手術が拡大されていきました。血管外科の医師から、癌はいくら取っても治らないのでは、とよく揶揄されました。最近、やっと癌に効く薬剤が登場してきて、鏡視下の手術が普及してきて治療が変わってきました。手術は治療法の一つである、という集学的治療が行われるようになりました。癌の治療も複雑になり、それぞれの臓器、それぞれの治療で専門家が必要になってきました。将来は手術なしで薬で癌が治る時代が来るような予感がします。

名古屋掖済会病院、癌研病院、津島市民病院、名古屋大学病院、東海産業医療団中央病院(吸収合併して現西知多総合病院と思います。)で勤務し、前任地の愛知県の碧南市民病院というところで21年余り働きました。300床ほどの急性期病院ですが、勤務し始めはスタッフのわりに手術症例が多く大変忙しく働いていました。時間外まで手術していたことがよくありました。10年ぐらい前に500床規模のがん拠点病院が近隣に移転してきてからは症例が減るようになり、急性期だけではやっていけないので包括病棟も少しずつ増やしていってました。近隣に500床以上のがん拠点病院が2つある関係で、高齢者の患者や合併症のあるがん患者、身寄りのない方など条件の悪い患者が集まる傾向にありました。近隣大規模病院で処理できない胆石症患者なども引き受けていました。常勤医師が減少していくなかで、市民病院であるために毎日、内科と外科に当直を置いていましたので、当直回数が研修医より多くなり日常診療に影響が出るようになり、外部から当直医を雇うようになりました。私は年齢的に当直は免除されていましたが、待機当番は他の4人の外科医と同様にやっていました。しかし、1年ぐらい前から、手術も待機も限界かな、と感じるようになり、医局に退職を申し出ました。また、数年前から周南市に残した母の状態が悪くなり、家族から面倒を見るように催促されていたので、思い切って山口県に帰ることにしました。光中央病院ではゆっくり診療ができるかと思いましたが、思いのほか忙しくてびっくりです。院長がやる気にあふれているからでしょう。また、看護師さんは、若くて明るく優しくなのでうれしく思っています。ただ、電子カルテではないので苦労しています。字が下手で記載の効率が悪く仕事はかどりません。黒のボールペンがドンドン無くなりそうです。また、手書きの指示が多いので何とかクリニカルパスを導入して仕事の効率をよくし、負担を軽減したいと考えています。ブラインドタッチはできないのですが、今電子カルテのありがたみがよくわかってきました。

趣味は40歳過ぎから始めた中高年登山です。登山は競争ではないのですが、初めのころはぐんぐんと歩いてごぼう抜きしていました。数年前からは抜かれることはあっても抜くことはまずないという感じでコースタイムより早くいくのは困難になりました。一時期は毎週のように山に行っていましたが、最近は体力が衰えてきたために出かける頻度も減りました。こちらに来たからには山口県や九州の山にチャレンジしようと思っています。もうひとつの趣味といえるのは4年前から始めたテニスです。週1回スクールに通っていましたが一番へたくそで、いつも手加減されていました。こちらでもやりたいなと思っていますが、スクールがみつかりません。いいところがあれば、教えていただくとありがたいです。

年齢的に仕事の効率は悪いかもかもしれませんが、よろしく願いいたします。

2019年5月

総合診療科・外科 長野 郁夫